2 版における改訂内容

改訂箇所	初版	2 版
p.4、【協力者】5 行目	―挿入―	大土直哉（東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター）
p.4、【写真提供者】最下行	―挿入―	山下弘（千葉県水産総合研究センター）
p.24、下から 4 行目	人によっては痛みを覚える。	人によっては痛みを覚える。クラゲに刺されたときは、残っている触手を海水で洗い流す（こすったり真水は厳禁）。
p.28、1～3 行目	―修正の上、イソバナの項の後ろへ移動（下欄参照）―	
p.28、20 行目	―挿入―	【硬八放サンゴ目】 （Scleralcyonacea の新称） 宝石サンゴ類とウミテングタケ類などを含む新サンゴ科とホソヤギ科、ムチヤギ科、キンヤギ科など多くのヤギ類およびアオサンゴ科とウミエラ類なども含む。潮間帯に現れる種類は少ない。
p.34、11 行目	順に紹介する。	順に紹介する。（以上　山西）
p.40、最下行	［分布］世界各地か。	［分布］*C. tentaculata* は世界各地。
p.60、2 行目	Souverbie, 1911	Souverbie, 1875
p.68、10 行目	イソマイマイ科	イソコハクガイ科
p.82、1 行目	*Hexabranchus sanguineus*（Rüppell & Leuckart, 1830）	*Hexabranchus lacer*（Cuvier, 1804）
p.82、6 行目	海中を優雅に泳ぐ。	海中を優雅に泳ぐ。1 種とされていたミカドウミウシが 5 種に分割された（2023 年 6 月）。日本にはそのうちの 3 種が分布しており（*H. giganteus*、*H. lacer*、*H. sanguineus*）、和名ミカドウミウシ（掲載写真）は *H. lacer* に対応する。
p.83、1～2 行目	*Goniodoris* cf. *castanea* Alder & Hancock, 1845	*Pelagella* cf. *castanea*（Alder & Hancock, 1845）

p.83、8～10 行目	*G. castanea* のタイプ産地はイギリス南部であり、ネコジタウミウシの学名については再検討が必要である。	*P. castanea* のタイプ産地はイギリス南部であり、本種の学名は、2023 年 5 月に発表された論文で属名が *Goniodoris* から *Pelagella* に変更された。
p.90、18 行目	（Mühlfeld, 1816）	（Megerle von Mühlfeld, 1816）
p.120、3～4 行目	異尾下目には 7 つの科があるが、ここではヤドカリ上科、タラバガニ上科、ガラテア上科（コシオリエビ上科）の 3 つを扱う。	異尾下目には 7 つの上科があるが、ここではヤドカリ上科、タラバガニ上科、ガラテア上科の 3 つを扱う。
p.120、5 行目	ヤドカリ上科	ヤドカリ上科（ホンヤドカリ上科）
p.120、中段の右図中	ヤドカリ上科の	ヤドカリ科の
	ホンヤドカリ上科の	ホンヤドカリ科の
p.122、ベニホンヤドカリの写真	―差し替え―	
p.125、下から 18 行目	（De Haan, 1839）	（De Haan, 1837）
p.129、下から 14 行目	（De Haan, 1835）	（De Haan, 1833）
p.137、下から 14 行目	（De Haan, 1835）	（De Haan, 1833）
p.149、下から 8～7 行目	バラスト水管理条約	船舶バラスト水規制管理条約
p.204、アラメの写真	―写真提供者名を追記―	（山下）
p.252、右段、下から 26～24 行目	骨片で、桿状体、亜鈴状体などの単純な 1 軸型から、それらが 3 放射状になった 3 軸型や 4 軸型などがある	骨片で、軸が 1 本の桿状体、亜鈴状体などの 1 軸型と、軸が 4 本の 4 軸型がある